

【施策評価調査】

施策名	2-2-1	地域密着型介護施設の整備		86	高齢者が明るく安心して生き生きとした老後を暮らすことができるようにするために 1、子どもから高齢者、障害者も利用できる複合的な多目的施設の整備 2、要支援要介護にならない予防策 3、地域包括支援センターの有効活用 4、高齢者の社会参加と学習機会の提供 5、安定した生活支援 6、地域協力の体制づくりを構築する 当施策は、1.の観点から先進事例の情報を収集し、老後の安心と住民にとって利用しやすい多目的福祉施設を整備します。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	住民生活部健康福祉課	担当 リーダー	社会福祉担当 赤羽 一夫		要介護者の様態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を提供しながら在宅生活を支援することができる小規模多機能型居宅介護施設*を整備します。さらに、認知症高齢者を対象とした認知症対応型グループホーム*を整備します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
環境変化	核家族化の進行や扶養意識の希薄化、共働きの増加等により家族における介護力の低下などから、介護施設を利用する方が増加するなど、高齢者をめぐる状況も大きく変化していることから、将来を見据え、要介護者のみならず全ての町民が利用できる多目的な複合施設の整備が求められています。				

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：小規模多機能居宅介護施設数(箇所)	平成16年度	計画	1箇所				
		実績	0箇所	0箇所	1箇所		
指標：認知症対応型グループホーム数(箇所)	平成16年度	計画			1箇所		
		実績			1箇所		
指標に関する特記事項	社会福祉法人幸世会が建築する、小規模多機能型居宅介護施設と認知症対応型グループホームの複合施設が平成21年3月末に完成した。						

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	7,500,000	0	48,110,000	0	
	決算		0	48,066,000		

事務事業事前評価 22年度の組立て

施策傘下事務事業	事業費	活動指標(アウトプット)	事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム)	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
小規模多機能型居宅介護施設整備	H21 現計 0		町内には地域密着型施設として、グループホーム高根沢・ケアハウスフローラ・大地の3箇所のグループホームと小規模多機能型居宅介護施設1箇所の空きが有る。グループホーム高根沢・ケアハウスフローラにおいては、各施設年6回の運営推進会議を開催しており、町もその委員になっている。各施設との情報の共有や連携を図りながら運営を支援していくことが必要である。	今後の方向性(総合評価)	条件付継続
	H22 計画 0				
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	
	H21 現計			今後の方向性(総合評価)	
	H22 計画			今後の方向性(総合評価)	

施策事前評価 22年度の組立て

後期計画に向けた施策展開のビジョン		H22年度の狙い
自己評価	今後の方向性 高根沢町高齢者総合福祉計画第5期(平成24年度から平成26年度)において、施設整備のニーズを把握し、必要に応じて施設整備を行う。 規模縮小	介護サービスのニーズを常に把握し、本当に必要なサービスは何かを知り、次期「高根沢町高齢者総合福祉計画」に反映させていく。
総合評価	整備した施設の運営状況を把握し、引き続き側面的なサポートを行うとともに、介護サービスのニーズを見極めた上で、後期計画において必要な施策となるのかよく検討すること。	